§２　愉快な活動（ハイキング）11:20～13:35(静原V)　10:50～13:05　(135分)

おもしろい活動（アンダーラインは「ぴ」思考表記）　担当　末吉、祝部、岸本。

目　標　（京都連盟ボーイスカウト講習会08.①）

参加者は、このセッション終了後、次のことが達成できる。

1　スカウト活動の方法を知る。

2　スカウト活動の安全について知る。

指導上のねらい

1．ボーイスカウトのハイキングを通して、愉快な(おもしろい)活動を実感させる。

2．班長訓練から隊集会までの流れを知り、ハイキングを体験させる。
（ボーイスカウト活動の流れ「班長訓練→班集会→隊集会」を知り、ボーイスカウトのハイキングを体験させる）

3．スカウト教育法を盛り込んだ体験をさせる。

4．安全について意識させる。

5．スタッフが班長となり班長の役割を見せる。

留　意　点

1．このセッションは、ボーイ隊長の経験を有する者が担当することが望ましい。

2．ボーイスカウト部門の展開方法を用いる。

3．ハイキングは、ドラマチックな想定により、参加者の興味・関心を引きつけ、参加意欲を高めるよう工夫する。

4．簡単な追跡、観察、冒険、善行、協力、関所を含む１km程度のコースを準備する。
（雨天の場合は、周到なる準備をもって行う）

5．コースの途中もしくは、ゴール地点で昼食を準備しておく。オープンサンドや、おにぎりなど簡単な調理をするメニューが望ましい。昼食の時間を30分程度確保する。

6．安全を最優先に考える。

※荒天時や会場の状況により、ハイキングの実施が不可能と判断される場合は、代替の「愉快な活動(隊集会)」を実施する。　**京都版（距離さえ取れれば、1/2～1/10の距離で実施する）**

用意するもの

○ ハイキング配布資材（作業指示書、地図、命の綱を班の数。追跡サインの例または種類イラスト紙、想定文、課題解答用紙、ゴールの年代説明文、感想文記入用紙は人数分。）

○ 昼食用お茶。救急用品。　○ ソング「パトローリング」歌詞の記入の大判紙。

○ チョーク(追跡サイン用)、追跡サインカード(各年代毎の生物が描かれたものに矢印)。

○ ~~2mメジャー班の数~~、10mメジャー(歩測練習用間隔計測用)、ホイール計測器(距離計測用)。

○ 10 mの練習間隔用杭またはコーンポストを班の数用意し事前設置。○ スタッフ昼食？

○ その他チェックポイント資材(課題の手紙、タイムスリップ用の結索キー《紙粘土に３種類の結索の型がついたもの》)など。(何度も使うカードや紙類は、ラミネート加工しておく)

表彰品、ゴール資料、カード、封筒

セッションの進め方

１．導　入――――――――――――――――――――――――――――――――（１０分）

最初　ソング「パトローリング」１番、２番　を歌う

（１）　「ハイキング」の話しをする。

ハイクは英国で死語になっていたものを、創始者ベーデン・パウエルが、観察・推理活動(スカウティング)の実践の一つとして復活させました。現代の我々が使っているハイキングは、ボーイスカウトが元祖なのです。(ここを強調する)

日本語では行脚(あんぎゃ)。奥の細道の行脚は内容から言って、ボーイスカウトのハイキングといえます。つまり、野山を歩くことだけで、ハイキングとは呼べないのです。ボーイスカウトでは、観察・推理の活動(スカウティング)が組み込まれて、初めてハイキングと呼べるのです。

(2)　「パトローリング」について説明する。

「巡察」という日本語がパトロールです。したがって、観察・推理するハイキングの行動隊形を「パトローリング」と呼ぶことが理解できるでしょう。1番は班長、2番は次長(副班長とは呼ばない。ついでに、副隊長と呼ばないことにもふれる)、3番へと順に若年者、また新入りへと番号を振る。そして、能力に応じて観察の分担をするハイキング行動隊形の歌がこの歌なのです。ここからボーイスカウト隊の「班」のことをグループとは呼ばず、役割分担するグループとして、パトロールと呼ぶようになったのです。

(3)　ハイキングの味付けについて説明する。

料理では、同じ食材でも味付けによって結果が変わるように、ボーイスカウトでは、ハイキングに味付けをします。そうすることによって、同じ道、同じコースでも、新鮮なものに変化させることが出来るのです。それを「想定」と呼びます。

(4)　これから実施するハイキングについて説明する。

今日はその「想定」を楽しんで頂きたいと思います。今日の内容はどちらかというと、大人向けに仕組まれていて、また地図の読み方とか、コンパスの使い方などの技術も不要の内容として組み立ててありますので、気軽に楽しんで下さい。

①　ハイキングの組み立てと流れを説明し、ハイキングの全体像をイメージさせる。

想定文→暗号解読→出発の許可→各チェックポイントでの活動→帰着の報告→ハイキングの感想文。これが大体の流れです。帰着後、昼食になりますが、今回は感想句を書いて提出後ハイキングは終わりとなるので、ご理解下さい。歩く距離は約1 km.です。

②　追跡サインの説明。絵や実物で説明する。

③　安全について説明する。　「命の綱」の説明をする(開封して中身を公表する)。

④　導入のまとめとして、ソング「パトローリング」1番、2番　を歌う

2．展　開　(実習)――――――――――――――――――――――――――(80分)

(1) 班長訓練 ――――――――――――――――――――――――――――――(10分)

①　簡単なセレモニー。ソング「パトローリング」1番。 隊長、副長、上級班長紹介。
班長はスタッフが担当する。班員(参加者)の善行報告をする(ドラマチの要領)。
上級班長は班長訓練の内容を丁寧に伝える。　**周囲で参加者が垣間見る。**

②　班長訓練　　(メジャー班の数)(10mの指標)
追跡サインの説明、身体計測(1 m以下の場合、靴の長さ、指の長さ等)、歩測(10m)、簡易測量法(棒横倒し法)、ロープワーク(8の字結び、本結び、引きとけ結び)

③　簡単なセレモニー。隊長は、隊集会の案内と、班訓練の期待と激励をする。
ソング「パトローリング」2番 を歌って終わる。

(2) 班集会 ――――――――――――――――――――――――――――――(10分)

①　簡単なセレモニー。ソング「パトローリング」1番。

②　班訓練　○敬礼、整列の仕方について簡潔に説明し実施する。○役割分担を決める。
○パトローリングの隊形を組む練習をする(班の2番以後の位置を確認)。
○追跡サインの説明(説明用紙を配布)。~~○身体計測(靴の長さ、指の幅)~~。
○歩測(10m)。　○ロープワーク(8の字結び、本結び、引きとけ結び)
○簡易測量法(棒横倒し法)省略可。(メジャー1個、10 mの練習間隔表示)

③　簡単なセレモニー。ソング「パトローリング」2番。

(京都連盟ボーイスカウト講習会08.①)